



すみれぐみだより

2019年 11月 第3号

日中のぽかぽかとしたお日さまがより温かく感じられる程、昼夜の寒暖の差もだんだんと大きくなり、少しずつ冬の訪れを感じる頃となりました。衣服をこまめに調節しながら、これから一段と寒くなる季節に負けず、なわとびやマラソン、体育ローテーションを通しての体力作り、また、元気いっぱい戸外遊びを楽しんでいきたいと思ひます。



みんなで考えてみよう



子ども達と一緒に様々な絵本を楽しんでいる中で、『いもとようこ日本昔話』のシリーズを読むことも多くあります。子ども達も絵でわかるようで「いもとようこ」と表紙を見て教えてくれます。いつものように絵本を読みながら子ども達に質問してみました。

ねずみのよめいり

ねずみのお婿さん探しの中で、「一番強いのは誰？」と聞いてみると、「かみなり」という答えが多くありました。物語を読み進める中で、太陽、雲、風の次はいよいよ雷だと期待していた子ども達。最後に一番強いのは「ねずみ」という結末にちょっと納得できない様子。絵本を読み終えても「強いのは雷だよ」と話していました。

かちかちやま

いたずらばかりするたぬきが捕まり、縛られているのを見て「かわいそう」と言った子ども達。どっちが悪いか聞いてみると「おじいさんとおばあさん」と皆が答えました。その後、おばあさんが殺されてしまうと「たぬきが悪い」と言う子も出てきました。最後まで読み終わってからもう一度聞いてみると「たぬき」「おじいさんとおばあさん」と半々位の答えでした。

同じ絵本でも、子ども達それぞれの感じ方があり、おもしろいですね。



カマキリ捕獲大作戦



ある日、フェンスの向こう側にいるカマキリを捕まえようと奮闘する子ども達の姿がありました。手を伸ばしても届かず、どうやって捕まえようかと悩んでいました。小さなスコップを伸ばしても届かず、スコップを重ねれば長くなると考えたようですが、重ねた分持つのも難しくなり断念。すると「これは？」と草のツルを発見。ツルを手に取り、フェンスの向こう側まで一生懸命伸ばし、遠くまで届くようになりましたが、草のツルでは先端が柔らかく自由になりません。「無理か～」と頭を抱えて諦め、また違うカマキリを捕まえようと探していた子ども達です。一生懸命考えながら挑戦していく姿が、とても可愛かったです。



ごはんおいしいね



9月の月刊誌に田んぼや稲、ごはんになるまでが紹介されていました。稲を見て「これ何？」と不思議そうに見ている子もいたので、稲を1株持ってきて観察しました。すると「田んぼが見たい」「田んぼで稲を見ながらご飯を食べたい」と子ども達から話がありました。給食時、ご飯粒を茶碗に残したまま片付ける子も多かったので、いい機会かと思い、おにぎりを持って田んぼに出掛けました。少しだけ田んぼに入ったり、稲に触れたり、稲を見ながら田んぼでおにぎりを食べてきました。バツタを見つけたり、コンバインを見たり、色々な物に興味を持っていた子ども達。数日後にはもみとりも経験し、1粒ずつ丁寧に取っていました。米1粒の大切さを感じ、給食時にはご飯粒だけでなく、おかずもきれいに食べてくれるようになり、子ども達同士で教え合う姿も見られます。

沢山の経験を通して成長していく子ども達。これからも子ども達のちょっとした気付きから色々な事を経験していけるような、楽しい保育を行っていききたいと思ひます。

